

巻頭言

～診療報酬改定に対する精神科薬剤師の取り組み～

平成26年度の診療報酬改定では、適切な向精神薬使用の推進を目的とし、特に抗不安薬・睡眠薬の頓服処方を含む多剤（3種類以上）処方では、精神科継続外来支援・指導料（55点）が算定できなくなった。また、院内処方では処方料（42点）が20点に減算、薬剤料は20%減算され、更に院外処方においても、処方せん料（68点）が30点へ減算された。この規定による向精神薬の適正化へ向けた診療報酬改定の評価について、奥村らは、「保険薬局で応需した処方箋を対象とした検討では診療報酬改定の効果は限定的であった」と臨床精神薬理誌18:1173-1188（2015）に報告している。つまり、一定の調査期間内で抗不安薬及び睡眠薬の3剤以上の処方はそれぞれ1.2%から0.9%、4.2%から2.4%へ減少したが、いずれかの薬剤を抗不安薬または睡眠薬へ切り替える方法で回避する症例等もあり、ベンゾジアゼピン受容体作動薬（DAP換算量）としては、大きな減少傾向が見られなかったと報告している。

一方、地方の精神科単科病院（199床）で、100%院内調剤を行っている当院では、薬剤師が処方医師へ直接的な働きかけを行ったことで、98%以上の処方整理（減算回避）が行われ、DAP換算量も有意に低下した。更に、処方変更の前後における患者の症状変化を調査したところ、症状の「改善」と「不変」を合わせると80%以上という結果であった（日病薬誌:51（7）851-854 2015）。院外と院内との違いはあるが、目的と期待されるアウトカムを明確にした薬剤師の能動的な働きかけが、医師の処方を動かす力になったという一例である。薬剤師の重要な取り組みは、未だ思いがけないところに眠っているのかもしれない。

東北ブロック世話人 黒沢 雅広

精神科臨床薬学(PCP)研究会版アドヒアランス評価尺度の作成

これまで、アドヒアランスの評価はDAI-10を使用してきましたが、DAI-10では日本語の表現の難しさ等の問題が指摘されていたことから、薬剤師が臨床場面において、簡便かつ有効にアドヒアランスを測定でき、また日本語の表現が分かりやすい新しい評価尺度の作成が望まれていました。

PCP研究会会員所属施設20施設に通院している統合失調症患者214名(男性144、女性70)において、PCP研究会世話人会で作成したアドヒアランス調査票40項目(PCP-40)に、薬に対する構えの評価表(DAI-10)を加えた50項目でアドヒアランスの評価を行いました。PCP-40の質問項目の中からDAI-10との相関が高い20項目を抽出し、短縮版PCP-20としました。さらにその中から内的整合性が高い10項目を抽出し短縮版PCP-10を作成しました。

本評価尺度は今後多くの患者で使用し、信頼性を向上させていく必要があります。会員の皆様には、今後ともご協力のほど宜しくお願いいたします。



代表世話人 吉尾 隆

2015年度上期の活動状況

先生方のお名前は敬称略で記載させて頂いております。

ブロック	開催地	開催日	特別講演	症例検討	追加プログラム 病院紹介/ショートレクチャー	参加人数		
北海道	札幌	8月9日	市立札幌病院 精神医療センター 上村 恵一	市立札幌病院 精神医療センター 上村 恵一	札幌医科大学 森元 隆文	33		
東北	仙台	7月5日	東北大学 松本 和紀	東北大学 松本 和紀	青南病院 黒沢 雅広	東北薬科大学 林 貴史	63	
関東・ 甲信越	東京	10月4日	獨協医科大学 尾関 祐二	斎藤病院 片平 真悟	井之頭病院 村野 哲雄	東京女子医科大学 堤 多可弘	東京女子医科大学 高橋 結花	41
	大宮	6月21日	獨協医科大学 尾関 祐二	順天堂越谷病院 小林 泰子		南埼玉病院 加藤 恵理子	30	
	千葉	7月12日	恩田第二病院 織田 健司	中山病院 黒川 早苗		式場病院 永久保 昇治	14	
東海	名古屋	8月2日	杏林大学 渡邊 衡一郎	杏林大学 渡邊 衡一郎	小笠病院 木内 健雄	服部病院 松井 美由紀	33	
北陸	金沢	8月2日	桜ヶ丘病院 林 真弘	脳と心の総合健康センター 宮部 真弥子		川田病院 廣保 究	40	
近畿	大阪	8月23日	大阪府立精神医療センター 岩田 和彦	大阪府立精神 医療センター 岩田 和彦	大阪府立精神 医療センター 四方 佳美	—	65	
中国・ 四国	広島	9月26日	いいい記念病院 長嶺 敬彦	広島市精神保健福祉センター 皆川 英明		広島市精神保健福祉センター 皆川 英明	15	
	高知	9月6日	海辺の杜ホスピタル 清水 博	土佐病院 森山 由起子		松山記念病院 梅田 賢太	15	
九州	福岡	8月23日	菊陽病院 和田 冬樹	久留米大学 医療センター 山田 英孝	菊陽病院 井上 裕子	久留米大学医療センター 山田 英孝	112	
	沖縄	7月12日	新垣病医 佐藤 香代子	玉木病院 道下 聡		平安病院 宇良 嘉代子	13	

PCP研究会への
メールアドレス登録のお願い

PCP研究会Newsletter をNo.19よりメールにて配信することとなりました。会員の皆様におかれましては、事前のメールアドレス登録にご協力いただきありがとうございました。登録されたメールアドレスには、Newsletterのほかホームページの更新情報などを配信していく予定となっております。

まだ登録がお済みでない会員の方は、再度登録をお願い致します。

北海道ブロック世話人 志田 雅彦

学会発表・論文投稿希望者の募集について

PCP研究会では、2005年から全国処方調査を実施し、以後毎年の学会発表とそのデータを比較検討した論文投稿を世話人中心に行ってきました。今後は、これまで数年にわたって調査にご協力をいただいた会員の皆様方にも、学会発表や論文投稿の機会を提供しようと考え、その希望者を募集いたします。

対象者の条件は下記を参照下さい。

- ①精神科臨床経験通年5年以上、②PCP研究会会員歴3年以上、③地区世話人からの推薦があること、④会員期間3年間に処方調査に参加していること。

※その他ご不明な点は所属ブロックの世話人までお問い合わせください。

東北ブロック世話人 黒沢 雅広

調査委員会より

1. 調査委員会より処方調査についてのQ&A

いつも処方調査にご協力いただき、ありがとうございます。

近年、精神科領域においても様々な調査が実施されるようになってきています。そのような状況を反映してか、「厚生労働省による調査ではクロナゼパムは抗不安薬に含まれていないが、PCPの調査方法はこれでいいのか？」など、調査対象薬の整合性に対するご質問もいただいております。そこで、調査委員会より補足の説明をさせていただきます。

PCP研究会が行っている処方調査は、統合失調症に対する日本の処方実態を把握することが目的であり、できる限り実臨床に即した形での調査を目指しています。そのため、薬効分類上は「抗てんかん薬」に分類されるクロナゼパムですが、焦燥感や落ち着きのなさ、身体のムズムズ感などに対して使用されることがあり、ベンゾジアゼピン系の調査対象薬に含めています。

また、これ以外でも、日本神経精神薬理学会より先日発表された「統合失調症ガイドライン」において、ゾテピンはSGAに分類されていますが、わが国での開発状況および薬理学的な特性から、FGAとして取り扱うことにしています。

2. 気分障害処方調査

昨年実施いたしました「外来の気分障害患者における処方調査」について結果をご報告いたします。調査にご協力いただきました先生方、ありがとうございました。

調査協力施設：10施設 対象患者：107名(男 / 女：49 / 58) 年齢：49.8 ± 14.7歳
対象疾患：うつ病79名、双極性障害28名

処方状況(うつ病 / 双極性障害)	抗うつ薬	87.3% / 64.3%
	気分安定薬	15.2% / 71.4%
	抗精神病薬	40.5% / 75.0%
評価尺度点数(うつ病 / 双極性障害)	H-SDS	14.8点 / 13.1点
	H-SAS	14.4点 / 12.7点
副作用調査票による副作用発現状況	うつ病	「体のだるさ」>「不安感」>「眠気」
	双極性障害	「体のだるさ」>「不安感」>「性欲減退」

H-SDS : Himorogi Self-rating Depression Scale
H-SAS : Himorogi Self-rating Anxiety Scale

東海ブロック世話人 宇野 準二



みんなねっと福岡大会「お薬相談コーナー」

第8回全国精神保健福祉家族大会みんなねっと全国大会が9月28日(月)～29日(火)に福岡市で開催されました。今年も会場内に「お薬相談コーナー」を設置し、福岡県病院薬剤師会の先生方とともに、薬の相談、ご家族の悩みや苦勞などいろいろなご相談をお受けしました。2日間を通して40人の方がお見えになりました。薬をのまなくて困っています… 主治医とうまく話せません… 自分が先に死んだらどうなるのだろうと思います…など様々なご相談を受け、ご家族への支援の大切さを改めて感じました。ご協力くださいました木藤弘子先生、宮川響子先生、進健司先生、園田美樹先生、ありがとうございました。

九州ブロック世話人 柴田 木綿

ブロック紹介 ～中国ブロック～

2015年度上期講演会は広島での開催でしたが、午前中はお馴染み長嶺敬彦先生に、「抗精神病薬の身体副作用」についてご講演をいただき、午後は広島市精神保健福祉センターの皆川英明先生に、パーソナリティ障害と自閉症スペクトラム障害についての講義&症例提示と、昨年の広島土砂災害で初めて出勤した広島DPATでの活動についてお話しをいただきました。中国ブロックエリア外の先生方のご参加も大歓迎です！

中国・四国ブロック世話人 北川 航平

2015年度下期ブロック講演会開催(予定)のご案内

ブロック	場所	開催日	会場
北海道	札幌	3月12日(土)	大塚製薬(株)札幌支店 大会議室
東北	盛岡	11月29日(日)	マリオス盛岡地域交流センター
	東京	3月13日(日)	秋葉原UDX GALLERY
関東・甲信越	千葉	2月7日(日)	大塚製薬(株)千葉支店
	大宮	2月28日(日)	ラフレさいたま
東海	名古屋	2月14日(日)	ウインクあいち
北陸	金沢	3月6日(日)	石川県地場産業振興センター
近畿	大阪	2月7日(日)	梅田スカイビル タワーウエスト 36F「スペース36」
中国・四国	米子	3月12日(土)または13日(日)	米子コンベンションセンター
	徳島	2月28日(日)	青藍会館(徳島大学医学部構内)
九州	福岡	12月6日(日)	福岡国際会議場
	沖縄	2月21日(日)	沖縄県男女参画センター「ているる」

※開催日および会場は、都合により変更となる場合がありますので、詳細はPCP研究会ホームページの活動状況欄をご覧ください。

事務局
掲示板

■2015年度会費(2015年4月～2016年3月分、年会費:3000円)

年会費のお支払いは、ご出席の講演会開催前までにお振り込みにてお願いいたします。

【郵便局】口座名:精神科臨床薬学研究会 口座番号:00170-2-578959

*通信欄に、必ずご施設名、お名前、会員番号をご記入ください。
(会員番号が不明な方は、メールで事務局(contact@pcp-rg.org)へお問合せください。)

■講演会プログラム

講演会開催日1ヶ月前を目処に各講演会プログラムをホームページ
<www.pcp-rg.org>に掲載しております。

■特別講演DVD「統合失調症薬物治療における身体合併症への対応
—突然死リスクを中心に—」

2015年度上期講演会を欠席された会員の皆さまにDVDを貸出しております。
希望される方は事務局までご連絡ください。バックナンバー(演題はホーム
ページに掲載)の貸出しも受け付けております。

■事務局連絡先

〒103-0025 東京都中央区日本橋茅場町2-4-5 茅場町2丁目ビル8階
株式会社ネオファルマ 内

E-mail: contact@pcp-rg.org (メールには必ず、1.施設名、2.氏名を記載して下さい。)

FAX: 03-5643-0114 URL: http://www.pcp-rg.org/

【編集後記】

9月の鬼怒川の氾濫のニュースは驚きました。被害に遭われた方々にはお見舞い申し上げます。各地の火山活動も活発になっているようで、自然の恐ろしさを改めて感じるこの頃です。縄文時代に人々が、自然を神に喩え、祈った気持ちが良く分かります。現代人の私たちも、自然に感謝する気持ちを忘れず、四季を楽しみましょう。

(T.H)

